

令和 4 年 6 月 14 日現在

機関番号：34309

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2021

課題番号：17K03836

研究課題名(和文)近代伏見酒造業の発展と都市化に関する総合的研究

研究課題名(英文)Comprehensive study on urbanization and the development of modern Fushimi sake brewing industry

研究代表者

岡田 知弘 (Okada, Tomohiro)

京都橘大学・経済学部・教授

研究者番号：60177053

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、近代日本において第二の酒造産地として成長した京都の伏見酒造業の発展過程を、物流の展開や都市拡大との関係で明らかにした。その際、主として伏見酒造組合が所蔵する江戸時代から2000年に至る2000簿冊以上の組合文書等のアーカイブズを構築することで、今後の実証研究に資するための基盤をつくった。さらに、地域産業史アーカイブズとして京都大学経済資料センターを拠点化し、国内大学諸機関及び民間企業のアーカイブズとの連携も図った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、伏見酒造産地の個別研究に留まらず、酒造業の産業連関を通じた都市形成論とも結合した新機軸の経済史分析の枠組みを提起したことに加え、そのような研究をすすめるための独創的な地域産業史アーカイブズを、伏見酒造組合資料を中心に構築することができた。これらの資料の目録は、京都大学経済資料センターによって一部公開されており、研究者だけでなく、一般市民にも利用可能となっており、研究のみならず、社会的にも広く活用できるものである。

研究成果の概要(英文)：The Fushimi sake brewing industry in Kyoto had developed into the second sake brewing area in modern Japan. In this research, we demonstrated the relationship of its development with urban expansion and logistics development. During the research, we laid the foundation for future empirical research by building an archive of documents of over 2000 files held by the Fushimi Sake Brewers Association from the Edo period to the year 2000. Furthermore, we also planned cooperative linkages with archives of university institutions and private companies in Japan in which the Archive of Economic Data and Sources of Kyoto University is made into an archives center for regional industry history.

研究分野：経済学

キーワード：産業史 伏見酒造業 産地形成 都市形成

## 1. 研究開始当初の背景

研究開始当初における本研究の学術的背景を、3つの視点から述べる。

(1)日本の酒造業史研究は、初期においては近世以来のマニファクチャ段階論、豪農や地主制度との関係、さらに近世の株仲間制度に焦点をあてたものであった。近年、谷本雅之らによる在来産業論研究の発展が見られるものの、それらは小経営によって成り立つ産業を対象としたものであり、近代初期から一定の資本蓄積をなしていた酒造業の近代化の研究は、日本の最大の酒造地である兵庫県灘を中心としていた。ただし、それについても、本研究の研究分担者である大島朋剛が、一次資料に基づいて酒造業の生産システムや市場構造、流過程を実証的に明らかにするまでは、トップ企業の経営史的分析に留まっていたといえる。

灘に次ぐ酒造地である京都・伏見を対象とした研究蓄積は、さらに限局されたものであった。トップクラスの個別企業の分析だけでなく、産地の構造、その動態分析、地方の酒造業者と大酒造地との関連、中間組織としての酒造組合の分析が不可欠になっていた。

(2)さらに、酒造業は、川上から川下にかけて独自の産業連関や物流構造、労働力調達構造をもつ。また、公権力を媒介にした水道や鉄道、港湾といった社会資本の形成を必然化する。つまり、産地形成のメカニズムを解明しようとすれば関連産業や物流機構の整備、そして国や地方公共団体の介在が必要不可欠であり、都市形成史研究との結合を必然的に求める。研究代表者が四日市市史研究で見いだした当該地域における基幹産業の資本蓄積による物質代謝の特性が、都市の建造環境や社会的関係、さらに国や地方公共団体との関係性を規定するという理論仮説をさらに実証することが求められていた。

京都市に接していた伏見町においても、酒造業の急速な資本蓄積が、都市人口の拡大を呼び、それに対応した建造環境の整備を地方公共団体に求めることとなる。さらに市制移行や京都市への編入過程における伏見の大酒造家の役割も注目されるものがあった。このような都市形成の政治経済史の理解に関して、地域産業としての酒造業史と都市形成史の結合という新機軸の理論構築を図ることが必要であった。

(3)大企業の経営資料に比べ、中小経営からなる地域産業資料は、散逸が甚だしい。これは酒造業についても、例外ではない。地域産業資料の収集、保存、公開は、日本資本主義の基礎過程を担う地域経済の形成を解明するために必要不可欠だといえる。

国際的にみると、日本の経済産業関係アーカイブズは極めて立ち遅れている。代表者が副センター長を務めていた京都大学経済資料センターでは、2013年に伏見酒造組合資料の寄託を受け、現在その整理分析を進めるとともに、整理を完了した近代分の一部から公開を開始している。本資料を核として産地形成の動向を把握するとともに、伏見内外の個別酒造業者の分析、他産業を含めた地域経済の動向、物資輸送の研究等を結びつけることによって、酒造業を核とした地域経済発展に関する研究課題に取り組むだけでなく、アーカイブズ学の最新の知見をもとに資料の収集、保存、電子媒体を含む目録化と公開、若手研究者の育成を図る地域産業史研究のハブ機能を果たすことを目指した。

## 2. 研究の目的

本研究は、後発ながら近代に入り急成長を遂げ、灘に次ぐ全国第2位の酒造産地となった京都府伏見町(現・京都市伏見区内)を研究対象とし、第一に酒造業史研究の視点から近代産地形成のメカニズムを解明するとともに、第二に都市形成史研究の視点から伏見町の都市拡大と市制移行の政治経済過程を明らかにすることで、地域産業史研究と都市形成史研究の統合に挑戦し、それによって伏見酒造業を素材として新たな産地形成史の方法を構築することを研究目的としている。併せて、第三に、それらの研究をすすめる資料群の基盤整備を直近のアーカイブズ学の成果によって行い、若手研究者による研究促進を図るための地域産業史のアーカイブズの拠点形成を図ることも目的とした。

## 3. 研究の方法

(1)上記の目的の達成をめざして、京都大学経済資料センターにおける地域産業史のアーカイブズの拠点形成を図るために、すでに寄託されている近代伏見酒造組合資料の詳細目録作成作業だけでなく、京都府内の酒造業者の資料調査及び都市形成史研究の基礎資料となる伏見関連の行政史料や新聞記事の調査と目録化作業を重点的に行った。これについては、上記経済資料センター副センター長、センター長を歴任した研究代表者(岡田知弘)及び、その退職後にセンター長となり、研究分担者に新たに加わった渡辺純子と、同センター研究員である水島和哉が、密接に協力しながら事業を推進した。

(2)伏見酒造組合資料と個別酒造業者資料、さらに地方公共団体や公的統計を利用した伏見酒造業の産地形成と都市化に関する総合的な研究をすすめた。酒造産地の形成史については、他の産地との比較も行いながら大島朋剛が担当した。また、伏見地域の物資輸送の実態解明に関する資料の収集と分析については、若手研究者の見浪知信が担当した。見浪は当初連携研究員であったが、職を得てから研究分担者として研究チームに加わった。さらに、伏見地域の地域経済、市

制移行、京都市との合併に関する基礎的な資料の収集と分析は、研究代表者の岡田知弘が担当した。

(3) 大学における地域産業史アーカイブズを構築するにあたり、京都大学内外の既存のアーカイブズの運営状況を調査し、担当者との意見交換をする「人文・社会科学資料のアーカイブに関する研究会」を常設化するとともに、民間の企業アーカイブズの運営実態についても調査し、情報交換することで、資料の保存や活用、運営上の工夫に関わる知見と経験を学びるとともに、各機関との連携を図るようにした。

(4) これらの調査、研究の成果を、研究代表者、分担者それぞれが属する学会等で発表するとともに、一堂に会した研究会を行い、今回の研究目的を達成するための進行管理も行った。

#### 4. 研究成果

(1) 京都大学経済資料センターに寄託されている伏見酒造組合資料約300簿冊、5500件の詳細目録を完成し、公開することができた。また、2020年度に入り、伏見酒造組合から新たに京都大学経済資料センターに寄贈された戦後資料108箱、1,479簿冊分についても仮目録を作成し、『伏見酒造組合資料仮目録(2020年度調査・搬出分)』としてまとめ、刊行することができた。また、伏見酒造業形成史及び都市形成史関係では、明治・大正期を中心に日本醸造協会発行の『醸造協会雑誌』と『日本醸造協会雑誌』、大阪財務協会発行の『大阪財務』、『大阪朝日新聞』、『東京朝日新聞』、『東京日日新聞』に掲載されている伏見酒造業及び伏見町に関する記事、京都府立京都学・歴史館(旧・府立総合資料館)に所蔵する伏見町時代の行政文書・統計類の資料調査や鉄道物流統計の整備、他の酒造産地の資料調査を探索し、目録化することができた。とりわけ、1882年から1890年にかけての『京都新報』、『京都滋賀新報』、『中外電報』(いずれも地方紙『京都新聞』の前身紙)から、酒造業および伏見町関連の記事を多数収集することができた。

さらに、廃業事業者を含む京都府内酒造家宛での史料所在調査を実施した。その成果は、酒造家資料の所在の発見や2019年11月に実施した福知山市での水島と大島による小規模酒造家の史料調査として得られた。

(2) 京都大学経済資料センターを事務局にして、「人文・社会科学資料のアーカイブに関する研究会」を10回近く開催した。とりわけ、滋賀大学経済学部附属史料館、神戸大学経済経営研究所附属企業資料総合センター、九州大学附属図書館付設記録資料館、和歌山大学紀州経済史文化史研究所、東京大学経済学部資料室等の運営担当者を京都大学に招聘して、アーカイブズ構築の経緯、運営体制、資料の特徴、アーカイブズ運用上の課題を情報交換したことは、京都大学における地域産業史アーカイブズを構築する上で貴重な示唆となった。

また、大学のアーカイブズの実態調査とは別に民間企業・団体のアーカイブズ調査も実施し、伏見区に所在している宝ホールディングス歴史記念館を訪問調査し、その後も交流することができたことも成果の一つである。さらに、2019年2月20日には京都大学で公開セミナー「創業の思いをつたえるー京都の企業記念施設と創業者資料」を開催し、宝ホールディングス歴史記念館に加え、京都市左京区にある住友史料館のスタッフも招聘し、経営・産業史関係のアーカイブズのあり方について意見交換と交流を実現し、連携の幅を広げることができた。

しかし、この間、研究代表者の岡田が京都大学を退職し、京都橘大学に異動したことにもない、京都大学経済資料センターの体制も変化したことに加え、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で、経済資料センターの学外者利用も一時不可能になるなど、研究活動が大幅に制約され、計画していた公開、対面の研究会もできなくなり、リモートでの研究打ち合わせ程度しかできない事態となった。そのため、2年にわたって科研費の補助期間を延長申請することとなり、なかなか研究成果を生み出せない状況となった。

(3) そのような困難な状況ではあったが、前述したように、主として研究分担者の水島和哉が主導し、岡田知弘・渡辺純子が経済資料センター長としてサポートすることで、戦前及び戦後の伏見酒造組合及び伏見町・地域に関わる一次資料の目録作りと一部公開を行うことができたことが最大の成果である。

また、それらの資料に基づいて、最若手研究者の見浪知信が、物流関係の統計を駆使して、研究をすすめ、経済史、経営史系の学会で、その成果を発表することができた。また、酒造史研究者である大島朋剛が、資料整理の傍ら、他の酒造産地との比較で、伏見酒造産地の特質を明らかにする作業に着手し、研究成果を公表しはじめたことも研究の前進であった。

さらに、都市形成史研究を行っている研究代表者の岡田知弘も、本科研費による調査研究に基づいて、産業史研究と都市形成史研究をつなぐ方法的仮説を京都産業研究の一環として発表したことにも貴重な成果のひとつである。

最後に、本科研費研究の実質的な事務局を担った水島和哉は、この間、国文学研究資料館が主催するアーカイブズ・カレッジ(史料管理学研修会)長期コースに参加し、修了論文を提出して、アーキビストとしての基本的素養やノウハウを獲得したことも大きな成果である。水島は、岡田とともに、環境アセスメント学会情報委員会主催「民間が保有する環境アセスメント資料のアーカイブ化に関する調査研究」公開研究会で報告するとともに、2018年度の第17回大会で招待報告することができ、環境関係資料との関連性や著作権問題との関係について、専門家と意見交換ができ、今後の研究の足掛かりとなった点は、大いに評価できる。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 見浪知信	4. 巻 62(1)
2. 論文標題 両大戦間期東京における輸出貿易の分析	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 桃山学院大学経済経営論集	6. 最初と最後の頁 1-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 見浪知信	4. 巻 86(4)
2. 論文標題 両大戦間期日本における見本市事業：輸出販路開拓を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 社会経済史学	6. 最初と最後の頁 353-374
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20624/sehs.86.4_353	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 岡田知弘	4. 巻 39/40
2. 論文標題 地域経済学研究の回顧と展望：私的研究史として	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地域経済学研究	6. 最初と最後の頁 47-57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 五島 敏芳、戸田 健太郎、水島 和哉、高田 良宏	4. 巻 29-4
2. 論文標題 地域資料管理基盤としての教育研究機関のデジタルアーカイブシステム	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 情報知識学会誌	6. 最初と最後の頁 361-366
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.2964/jsik_2019_054	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡田知弘	4. 巻 734
2. 論文標題 京都帝国大学経済学部の教育研究活動と国家・社会	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 大原社会問題研究所雑誌	6. 最初と最後の頁 29-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 岡田知弘	4. 巻 第2巻
2. 論文標題 大学と地域再生	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 帝京大学地域活性化研究センター年報	6. 最初と最後の頁 1-2
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計15件 (うち招待講演 7件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 水島 和哉
2. 発表標題 京都酒造業をめぐる取引関係 京都・伏見酒造業の販売の一例
3. 学会等名 日本地域経済学会第31回全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大島朋剛
2. 発表標題 戦前期東北地方の地主兼酒造家による酒造経営の発展と限界 - 秋田県鹿角郡 花輪町関善次郎家を事例として
3. 学会等名 経営史学会西日本部会9月例会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大島朋剛
2. 発表標題 古文書からたどるかづの酒づくり
3. 学会等名 鹿角市立図書館主催歴史講座（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岡田知弘
2. 発表標題 京都帝国大学経済学部の研究教育活動と国家・社会
3. 学会等名 日本政治経済学・経済史学会春季研究集会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岡田知弘
2. 発表標題 地域経済学研究の回顧と展望 私的研究史として
3. 学会等名 日本地域経済学会大会第31回全国大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岡田知弘
2. 発表標題 地域開発と公害問題に関するアーカイブズ活動の意義
3. 学会等名 環境アセスメント学会第17回大会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 水島和哉
2. 発表標題 第二次世界大戦敗戦直後における日本の民間所在資料の状況 「近世庶民史料所在調査」調査書の分析を中心に
3. 学会等名 日本アーカイブズ学会2018年度大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 水島和哉
2. 発表標題 近代伏見の都市形成と酒造業 「伏見酒造組合資料」からのデータ・マイニングの可能性
3. 学会等名 日本地域経済学会第30回全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大島朋剛
2. 発表標題 戦前期灘酒造業に見る出稼ぎ労働者とその移動
3. 学会等名 第22回経営史学会東北ワークショップ
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大島朋剛・富善一敏・大澤篤
2. 発表標題 酒造家と地域社会 - 秋田県鹿角郡閑善酒店の事例から
3. 学会等名 経営史学会関西西部会2018年大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 見浪知信
2. 発表標題 両大戦間期における新販路開拓ー海外見本市・旅商を中心にー
3. 学会等名 政治経済学・経済史学会、2018年度秋季学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 見浪知信
2. 発表標題 両大戦間期日本の輸出とその拡大プロセスについて
3. 学会等名 名古屋大学経済学研究科「課題設定型ワークショップ 社会経済研究」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 岡田知弘
2. 発表標題 地域産業研究の可能性
3. 学会等名 龍谷大学京都産業学研究センター開設15周年シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 岡田知弘
2. 発表標題 地域開発と公害・環境問題に関するアーカイブズ活動の意義
3. 学会等名 環境アセスメント学会情報委員会（招待講演）
4. 発表年 2018年



1. 発表者名 水島和哉
2. 発表標題 京都大学経済資料センターおよびアーカイブズ活動の紹介と社会科学系アーカイブズの全国的動向
3. 学会等名 環境アセスメント学会情報委員会（招待講演）
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 岡田知弘	4. 発行年 2020年
2. 出版社 自治体研究社	5. 総ページ数 402
3. 書名 地域づくりの経済学入門 増補改訂版	

1. 著者名 京都産業学研究シリーズテーマ別研究第2巻編集委員会	4. 発行年 2019年
2. 出版社 龍谷大学・京都産業学センター	5. 総ページ数 87
3. 書名 京都産業学の可能性：地域産業学への貢献を目指して	

1. 著者名 大門正克・岡田知弘・川内淳史・河西英通・高岡裕之編著	4. 発行年 2019年
2. 出版社 大月書店	5. 総ページ数 358
3. 書名 『「生存」の歴史と復興の現在』	

1. 著者名 阿部 正浩、菅 万理、勇上 和史、大島 朋剛	4. 発行年 2017年
2. 出版社 中央経済社	5. 総ページ数 240
3. 書名 職業の経済学	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	渡辺 純子 (Wanatabe Junko) (90261271)	京都大学・経済学研究科・教授  (14301)	
研究分担者	大島 朋剛 (Oshima Tomotaka) (20619192)	神奈川大学・経済学部・准教授  (32702)	
研究分担者	水島 和哉 (Mizushima Kazuya) (40764147)	京都大学・経済学研究科・研究員  (14301)	
研究分担者	見浪 知信 (Minami Tomonobu) (80824309)	桃山学院大学・経済学部・講師  (34426)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------